

バルコニー用床化粧材

CREGARE 施工手順

[クレガーレ]

この度は、セキスイのバルコニー用床化粧材「クレガーレ」の設置をご検討いただき、誠にありがとうございます。
 こちらはタイルを設置するための手順の説明書となります。
 ご自宅での施工前にご一読ください。

バルコニータイル 積算編

タイルの必要枚数の割り出し方

①バルコニーを採寸する

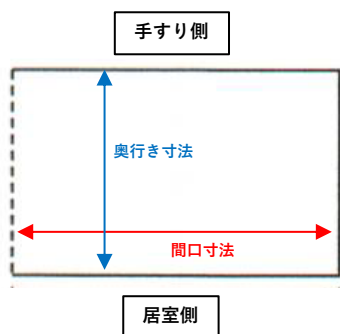
クレガーレの必要枚数を算出するために、メジャーで間口と奥行きを採寸を行います。

タイルの配置をしやすくするために下記の採寸例を参考に「基準線（点線）」を設定してから、採寸してください。

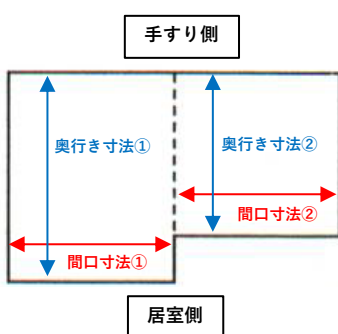
排水溝や雨戸の戸袋、雨桶の落とし口、柱など障害物についても位置の確認と寸法測定を行います。



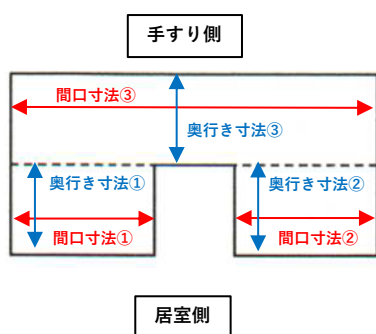
【採寸例1】



【採寸例2】



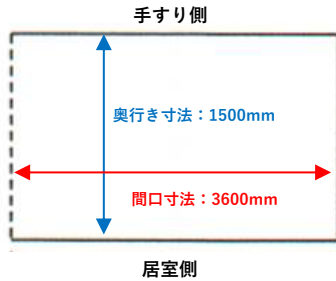
【採寸例3】



②タイルの枚数を算出する

間口と奥行き寸法の2辺からバルコニータイル（1枚：298×298mm）の必要枚数を算出してください。298mmより小さな端部や障害物のある部分は、プラスチックネットタイプ（1枚：298×298mm）や幅調整材（1枚：298×149mm）ですき間を埋めて仕上げます。

◎タイルの必要枚数の調べ方



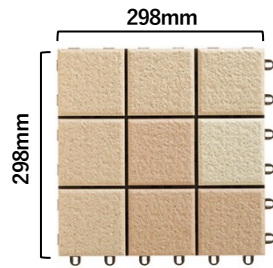
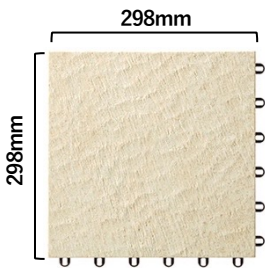
◎間口が3600mm、奥行きが1500mmの場合

間口… $3600\text{mm} \div 298\text{mm} = 12$ 枚

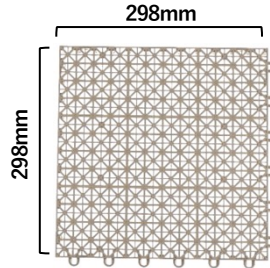
奥行き… $1500\text{mm} \div 298\text{mm} = 5$ 枚

必要なタイルは $12 \times 5 = 60$ 枚 となります。

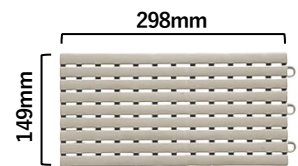
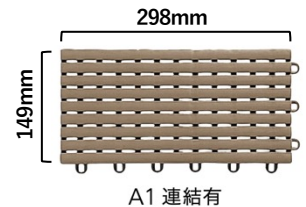
◎クレガーレ本体



◎プラスチックネットタイプ



◎幅調整材



クレガーレはどのデザインも298×298mmで統一されています。



バルコニータイルや調整材の必要枚数を割り出せる便利なツールもご用意しています。詳しくは当サイトのお問い合わせフォームからご連絡ください。

バルコニータイル 施工編

バルコニータイル施工の大まかな流れ

1. 必要な道具を準備しよう

2. 施工前にバルコニーを清掃

3. 仮置きで仕上がりをイメージ

4. タイルを連結していこう

5. 端部や障害物のまわりの納め方

6. 耐風対策について

7. 端部カバー材の納め方

8. 残材の清掃と点検

1. 必要な道具を準備しよう

施工の前に、以下の工具をご用意してください。

- ◎メジャー ◎ゴム手袋
- ◎大型カッター（ネジ固定式）
- ◎プラニッパー ◎定規
- ◎ゴムハンマー
- ◎カッターマット



2. 施工前にバルコニーを清掃

バルコニーの防水面の保護、
施工後のタイルの凹凸防止のため、
必ずバルコニー床面のゴミや
土埃などを取り除いてください。



3. 仮置きで仕上がりをイメージ

クレガーレの種類によっては、タイルの
表面デザインに向きがあるタイプがあり
ます。連結する前に仮置きして仕上がりを
イメージしておくと失敗がありません。

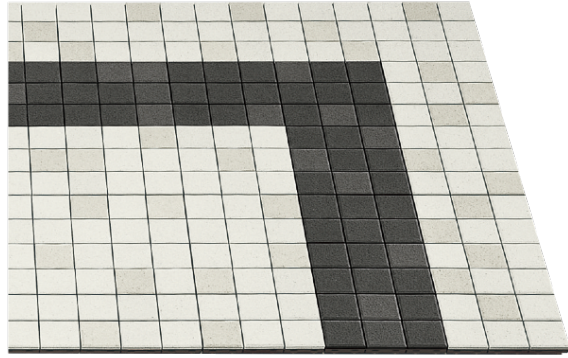
- ◎表面柄に向きがあるリンクトーン



◎タイルの柄の向きやデザイン貼りによる仕上がりの違い



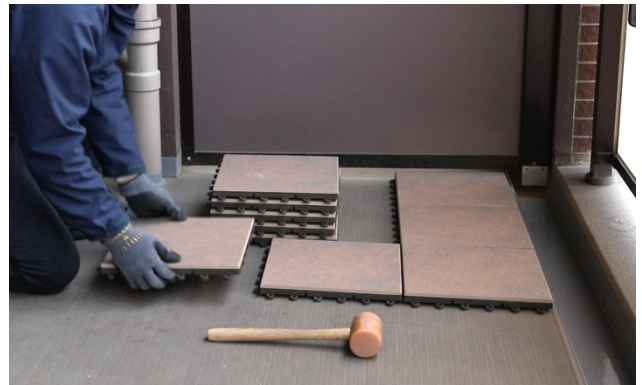
市松貼り施工 (リンクトーン)



デザイン貼り施工 (モノタイル)

4. タイルを連結していこう

仮置きで仕上がりのイメージができたなら、
タイルを実際に連結していきます。

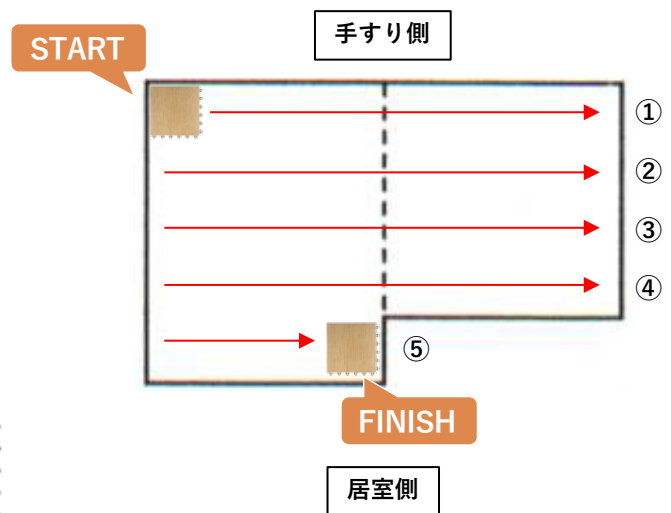


①設置のスタート地点と方向について

タイルを設置するスタート地点は、
図のように手すり側の出隅位置に
設定すると簡単に施工できます。

スタート地点のコーナーに沿って、
タイルの連結部が無い部分を合わせて、
同じ向きで手すりに沿って

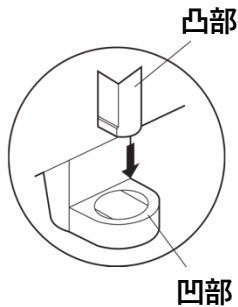
①～⑤の順番で連結していきます。



連結しながら進んでいく方向

② 連結の仕方

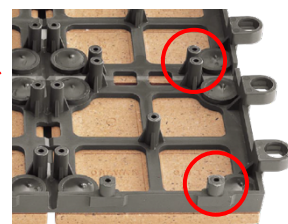
タイルを連結する際は、凸部と凹部の連結部を重ね合わせて、下方向に「パチン」と音がするまで押し込んでください。



タイル同士の連結部を合わせてゴムハンマーで軽く叩くとラクに連結できます。

③ バルコニーの凹凸部分の調整

バルコニー床面に凸部がある場合は、プラニッパーなどでタイルの足をカットして調整してください（3mmまで）。凹みがある場合には、穴埋めなどを行い床面を平らにします。



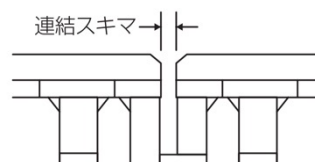
タイルを裏返して床面の凹凸に合わせて裏足をカットすると、施工後の床面のガタツキが抑えられます。

④ すき間の調整（熱伸縮対応）

■ タイル同士のすき間

タイルを連結するときは、連結部を詰めすぎず、右図のようにすき間を開けるようにしてください。

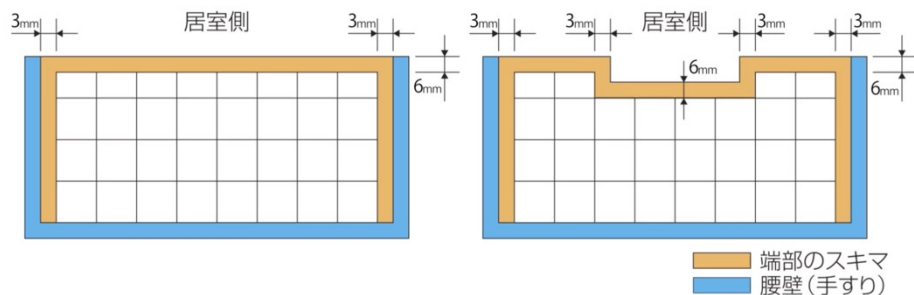
すき間がないとプラスチックの枠が気温の変化で伸縮し、バルコニータイルが盛り上がる可能性があります。



冬場（気温10度未満）
連結スキマを完全（4mm）に開けてください
その他（気温10度以上）
連結スキマを2mm開けてください

■端部のすき間

バルコニーの周囲の端部には、下図のように大きめのすき間を開けてください。
片側にすき間を取る場合に6mm、両側でとる場合は3mm必要です。



片側に周囲のスキマをとる場合 → 敷設方向1mあたり6mm

両側に周囲のスキマをとる場合 → 敷設方向1mあたり3mm

5. 端部や障害物まわりの納め方

端部のすき間や排水パイプ、避難ハッチなど障害物の周囲は、幅調整材をすき間に合わせてカットしてはめ込むと美しく仕上がります。

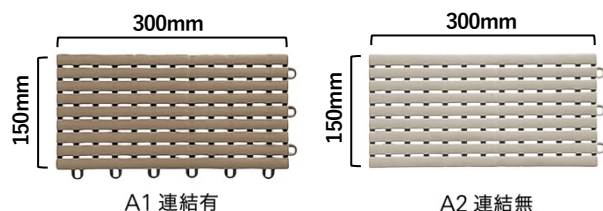


①幅調整材の使い方

幅調整材は溝に沿って、カッターで簡単にカットできます。
余ったすき間に合わせて切断し、すき間を埋めてください。



◎幅調整材



幅調整材は「連結有」「連結無」の2種類があります。タイルの連結部の向きや埋めたいすき間に合わせてお選びください。

②排水パイプのまわりの納め方

排水パイプのサイズに合わせてプラスチックネットタイプや幅調整材をカットすることで、さらにすっきりと美しく仕上げることができます。



排水パイプの周囲にすき間を開ける。



排水パイプのサイズに合わせてプラスチックネットタイプをカット。



余分なすき間がなくキレイに仕上がります。

③避難ハッチのまわりの納め方

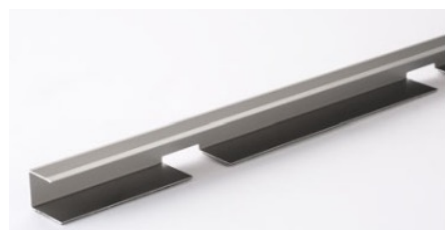
排水パイプと同様に、避難ハッチの周囲もすき間を開けてプラスチックネットタイプや幅調整材をカットして納めることができます。

避難ハッチの開閉に影響がないように、取っ手部分や周囲にすき間を開けてください。

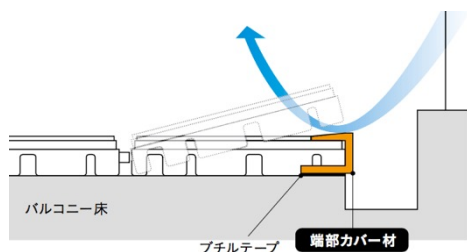


6. 耐風対策について

セキスイでは、強風によるバルコニータイルの飛散を防ぐ端部カバー材をご用意しています。安全のため、次ページの設置条件に合わせた、耐風部材施工をおすすめします。



端部カバー材（別売）



施工したタイルの手すり側にはめ込み、両面ブチルテープで固定することで、手すりから吹き込む強風でタイルが浮き上がって飛散するのを防ぎます。

■通常の矩形（長方形）バルコニーの場合

通常の腰壁やパネルで覆われた矩形バルコニーは、**1～10階**までは耐風施工は不要です。**11階以上**の場合は、強風によるタイルの飛散を防ぐ端部カバー材を設置してください。

◎通常の矩形バルコニー



■風の影響を受けやすいバルコニーの場合

風の通りやすい下記のような形状のバルコニーの場合、施工方法について当サイトのお問い合わせフォームからご連絡ください。

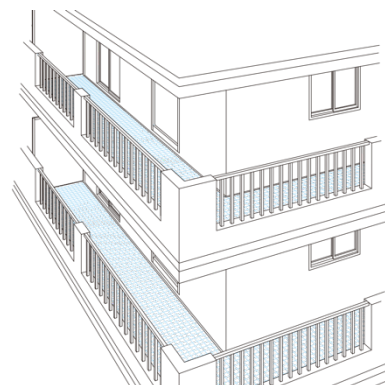
◎ルーフバルコニー



◎格子手すりのバルコニー



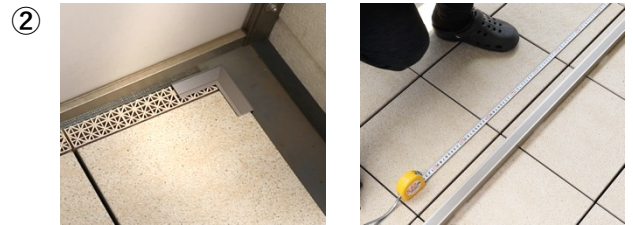
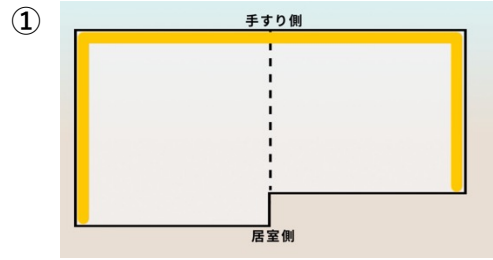
◎L字型バルコニー



お問い合わせの際は、お住まいのバルコニーの図面や写真をお送りいただくと、より詳細なご提案が行えます。

7. 端部カバー材の納め方

- ①端部カバー材は、風の吹き込む手すり側と隣のお部屋との間にあるパーテーション側の3方向に設置します。
- ②端部カバー材のコーナー材（出隅材・入隅材）を仮設置し、必要な端部カバー材の寸法を確認します。
- ③寸法に合わせてカットした端部カバー材の裏面にあるブチルテープの剥離紙をはがしてタイルに差し込みます。
- ④端部カバー材同士を付属のジョイナーで固定します。



8. 残材の清掃と点検

施工が終わったら、カットしたプラスチックネットタイプや幅調整材などの残材の片付けを行ってください。
残材が残っていると排水口に詰まって、水が流れなくなる恐れがあります。

最後に、

- ◎しっかり連結できているか
- ◎目地は揃っているか
- ◎必要なすき間を取っているか
- ◎タイル表面に凹凸は無いか
- ◎避難ハッチはきちんと開閉するか

などをチェックしておきましょう。

